

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えんりっち		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援内容や支援の専門性の高さについては、満足度が高い結果が多かった。	週に1回研修を実施していることに加え、新しい職員向けのカリキュラムもあり、支援の質を維持・向上できるように取り組んでいる。	今後は事例を検討するなど、子どもの発達を理解や、支援の幅を広げるための研修等を実施し、より充実した支援となるように研鑽していきたい。
2	保護者や児童に対して、職員が受容的、親身になって対応してくれるなど、職員の態度や対応についての満足度が高かった。	まずは気持ちを受容・共感することが信頼関係構築の第一歩であること、信頼関係の構築が支援の入口と共通理解を持つよう心がけている。	一方で「忙しそうに感じる」という意見もいただいており、現状に満足せず、さらに接遇の質を高められるよう、研修などに取り組んでいきたい。
3	遊具やおもちゃ、支援グッズが豊富であること	感覚統合を主軸としていながらも、運動や感覚、コミュニケーション、学習に必要な支援グッズ等もできる限り用意するようにしている。	支援を通じて、必要な物品等を準備し、可能な限りオーダーメイドでの支援ができるように取り組んでいきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の小学校や学童クラブとの交流や、地域で他の子どもと活動する機会がない	弊所では個別療育による専門的な支援を中心としているため、イベントなどの開催が運営的に難しいことが要因と考えられる。	利用者様のニーズとして、個に対する支援を希望されることが多いため、どの程度まで実施可能かはわからないが、地域の子どもたちと交流できる機会をイベントとして作っていけるよう検討していく。
2	保護者会等は開催しているが、対象が部分的となっている。また、父母の会の支援などはできていない。	以前は全体向けに保護者会を開催していたが、現在は人員の関係上、実施できていない。	今年度から年に数回実施していく予定である。
3	マニュアルはすべて作成しており、研修・訓練なども実施しているが、利用者様に周知ができていない。	マニュアル等を事業所内に配架しているが、お子様の手の届きにくい場所に位置しているため、保護者様も気づきにくいかと考えられる。	設置位置については変更が難しいため、SNSでの発信をしていけるように取り組む。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
		2025 年 4 月 30 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・個別では多くて3組が同室で遊ぶことにはなるが、3エリアあり、十分に遊べる広さだと感じている。 ・グループでも5人の子どもが運動しても十分な広さがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	・個別療育は1対1であり、グループ療育でも5名の子どもに対してスタッフが4人対応しており十分だと感じている。	・グループでは、遊具の出し入れ等が必要な状況や、手洗いで部屋間を移動する際には、目が届き切らないと感じることはあるが、保護者と協力してカバーしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	・空間としてはパーテーションなどを利用しながら、構造化しており、課題等も可能な限り視覚的にわかりやすく提示している。	・お子さんの発達特性の程度によっては、課題の提供の仕方に課題を感じることがあり、どのように提示したら理解してもらえるのか検討が必要に感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・常に清潔を意識している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・認められているし、使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	・研修や、グループ療育、運営等担当者が配置されており、それぞれに年間の目標を立てて、中間や年度末に振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・把握する機会を設けている。運営会議でみんなで閲覧して、次年度の業務に活かしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・運営会議を毎週開催しており、気になったことなどについては話し合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	・しているか知らない。 ・していない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・毎週研修がある。 ・児発管や強度行動障害支援者研修など外部の研修への参加費用も補助されている	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	4	・利用者様のページに公表されている。	・公表しているか知らない。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1	・アセスメントやモニタリングを行ったうえで計画書を作成している。	・こどものニーズとなると本人が話せない場合にはきちんと把握できているか心配な時もある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・理想の子ども像を職員間で共有し、対応などに困った際には、その子の気持ちに沿ったり、成長につながるように意識している。	・最善の利益と言われると、自信のない部分はある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	・計画書を基に情報を共有したり、支援内容について検討している。	・非常勤のスタッフに関しては、共有不足の時がある気がする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・日々の子どもの行動や運動については、行動観察などにより評価し、次の支援につなげている。 ・必要に応じて、社会生活や読み書き、感覚などのフォーマルな検査を実施している。	・フォーマルな検査があることは知っているが、一人で実施できるかは不安で実施できていない。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・必要な項目、支援内容が設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	・個別療育に関しては一人で立てているが、グループ療育のプログラムが会議で検討して立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2	・お子さんの状態に合わせながらステップアップするように支援している。	・工夫しているが、活動を段階付けていくことに難しさを感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	4		・年単位では個別or集団を選択してもらえているが、組み合わせるということは難しい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・グループ療育の際には、打ち合わせを行っており、役割や個々の対応について共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	・療育終了後には振り返りを行い、子どもの姿や課題の共有、プログラムの改善点などについて話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・記録を書いている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・モニタリングは必ず行っている。 ・支援計画を書き直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	・複数組み合わせで実施できていると思っている。	・地域交流の活動については実施できていないため、今後検討していく必要がある。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	4	・療育のプログラム開始前に、当日の活動内容を相談して決めている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・児発管が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・保護者の希望に応じて、保育所や学校と管理者が連携を行う体制をとっている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	0	7		・送迎を行っていない
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	7		・特にしていない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	7		・そのような機会がない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	7		・児童発達支援センターにスーパーバイズしてもらえることを知らなかった。 ・窓口がどこで、どのような支援を受けられるのか知らない。あるならば受けたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		・交流などは行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	7	・自立支援協議会へ参加する仕組みがない	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・日々の療育の中で、お子様の成長や課題のポイントなど共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	・保護者会を開催し、その中でテーマを決めて研修を行っている。	・個別療育を受けている家族には参加がむずかしい。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時に詳細に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・アセスメントの中で、意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	・している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	・日々の療育内でも相談を受けているし、必要に応じて児発管が相談に乗っている。	・相談には乗っているが、適切な回答ができているかは不安。助言内容などについては研修などで研鑽が必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	・保護者会を開催し、その中でテーマを決めて研修を行っている。	・個別療育を受けている家族には参加がむずかしい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	3	・苦情解決窓口があり、受け付けている。	・苦情がどの程度あるかわからない。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・Instagramで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	3	・絵カードなどを使用している。	・視覚障害や聴覚障害をお持ちの方は利用されていないが、利用があった場合には意思疎通が難しいと感じるため、必要に応じて準備が必要。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	・えんりっちひろばの活動では、地域の子どもたちに遊具などを体験してもらっている。	・行事などはしていない。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・マニュアルを策定している。毎年見直している。	・周知できているかは不明。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・BCPを策定している。 ・備蓄品についても準備している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・契約時に確認をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4	・食物アレルギーも利用時に確認している。	・現在、食物アレルギーへの対応が必要な児童がいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	・安全計画を策定しており、訓練や研修を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	3		・家族への周知できているかは不明。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	・朝礼でヒヤリハットを共有している。 ・必要に応じて柱などの防護を行っている。	・下半期では報告数下がってくるため、次年度は意識づけが必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・研修をしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	・している。	